

## 令和7年度 校内研究報告書

中高等部 A 教室 (ⅡB 課程)

### I 研修内容

「教室内で意見を共有した中心課題の抽出法について」

1. 自立活動の中心課題について、担任の考えを聞いた。
2. 中心課題について話し合い、確認した。
3. 課題に対する、手立て・支援方法・具体的な手順などについて一緒に考えた。
4. 外部指導講師から身体についてのアドバイスをもらい、共有した。
5. 振り返り(予定)

### Ⅱ 研究成果

1. 中心課題について、各担任の方針を共有できた。
2. 皆で知恵を出し合うことで、アプローチの仕方がより幅広いものになった。
3. 外部指導講師からのアドバイスをもらうことで、個に応じた手立てが増えた。

(N・T)

- ・自活の取り組みについて、写真で手順や取り組み内容がまとめられており、活動のイメージが持ちやすく引き継ぎをスムーズに行うことができた。(涼香先生から引き継ぐ際に)
- ・クラスの中で、ペアに分かれることで、普段一対一では難しい活動(丸太をまたぐ活動など)にも取り組むことができた。

(R・T)

- ・専門家活用研修においてサポートの仕方のアドバイスをもらうことで、体のどの位置を支えたら良いのかが明確になり、正しいサポートをすることで安定した立位の練習をすることができた。
- ・立ち上がりの練習や自活の時間以外での立ち上がりの場面では、背を反らせるなどの不適切な動きが出てしまうことも多かったが、教師間で「不適切な動きは側弯の進行に繋がる」ことや「正しい姿勢を保つ(繰り返し経験させておく)ことは、介助してもらう場面でも重要となる」ことを共有しておくことで、自活の時間や授業での姿勢に関する指導のポイントを押さえてもらうことができるようになった。

(K・T)

- ・定時排泄を周知、共有することにより徹底して行うことができ、生徒本人のルーティーンとなりスムーズな定時排泄を行うことができた。
- ・専門家のアドバイスにより適切な歩行方法について確認を行った。歩行時に足のつま先が前を向いていることが望ましいことであり、本人は元々そのように歩くことができている指導者側の確認、周知ができた。
- ・PT からのアドバイスで椅子に座った状態から手を伸ばすことにより腹筋を使う練習をすることができた。

(A・O)

- ・外部指導講師からのアドバイスを動画や、口頭で共有して自立に生かすことができた。中心課題について各クラスで話し合いをすることで、新任の職員が生徒の実態を知ることができた。また、職員間で話すことで、経験のある職員からアドバイスをもらうことができた。

(I・F)

・特に重要課題として自傷(頭を叩く)の改善と排便をした際の使いじりをやめさせる事に取り組んだ。自傷についてはその要因(眠い時、つまらないとき、体調が悪いときなど)について考え、対応として①その時の気持ちを引き出す②発散させる(トランポリン)③課題などは短時間で終わらせる④楽しみを増やすことを共通理解し取り組んだ。結果、自傷行為を減らすことができ、右こめかみのこぶが小さくなり、言葉かけで変化が見られる様子も見られている。また使いじりに関しては便をいじってはいけないという理解を皆で強化できたことで学校内では、使いじりを無くすことができた。

### Ⅲ 研究課題(今後の取組)

1. 自立活動の時間に担任が入っていることが多く、中心課題についてはその時間を使って行ったため、自立活動手順シートを活用することができていなかった。担任が入らない時間(周辺課題)については、自立活動手順シートを使って授業に取り組めるような仕組みを作っていきたい。

(N・T)

・今後も、身体能力、筋力を保持するために、本人の体調を第一に考えながら、毎日の自活メニューに取り組んでいくことが必要である。

(R・Tさん)

・担任が担う中心課題と、ST が担う周辺課題に振り分けて役割を分担し、計画的に自立活動を実施していく必要がある。  
・各課題については関連付けて授業を行うためにも自立活動手順シートを活用して行く必要がある。

(K・T)

・トイレでの排泄の成功率が低い。(成功したのは学期に数回程度)オムツなしの練習や排泄のタイミングを変える等改善が必要。  
・歩行練習や姿勢維持のための自立活動は引き続き継続が必要。

(A・O)

・自活ファイルを自活に入る職員に共有することができなかつたので、ファイルの置き場を決めたり、周知したりすることが必要。

(I・F)

・自傷、使いじり以外にも様々な課題があるが、自立活動手順シートをうまく活用できておらず、その他の課題まで皆で共通して取り組むまでには至らなかった。全ての課題に同時並行で取り組むことは本人にとって大きなストレスになると感じることから、本人のペースを大切に自立活動手順シートも活用しながら一つ一つ取り組んでいきたい。